

令和2年度 児童発達支援・放課後等デイサービス ガイドラインに基づく 自己評価結果

台東区松が谷福祉会館 こども療育室
令和3年1月 公表

台東区松が谷福祉会館こども療育室では、区内在住のお子さんに提供している「児童発達支援」及び「放課後等デイサービス」の支援の質の向上・支援内容の適正化に向けて、ガイドラインに基づく自己評価を実施しました。下記のとおり、結果を公表いたします。

| | |
|-------|--|
| ●実施期間 | 令和2年11月～12月 |
| ●回収率 | 児童発達支援 96.5% (111/115 人) 放課後等デイサービス 100.0% (9/9 人) 職員 100.0% (29/29 人) |

| | 項目(骨子) | 保護者・職員アンケートからの考察 | こども療育室からのコメント・改善目標、工夫点など |
|--------------|---|--|---|
| 環境・体制整備 | <ul style="list-style-type: none"> ・利用定員や職員配置数の適切さ ・わかりやすく構造化された生活空間 ・バリアフリー化や情報伝達等への配慮 ・清潔で心地よく過ごせる環境 ・子供達の活動に合わせた空間 | <ul style="list-style-type: none"> ・定員、スペース、職員配置等は基準を満たしているが、より良い環境が求められている。 ・清掃や安全点検に努めているが、建物の老朽に伴う設備の使いにくさや不具合への心配が生じている。 | <ul style="list-style-type: none"> ・会館内で療育事業を拡充してきた経過や建物の経年劣化に伴う構造上の課題があります。これまでに衛生面の心配があった絨毯敷きについては、早期に対応していきます。今後も、環境設備の点検及び修理等に対応すると共に、日々の清掃や装飾などによる清潔で明るい雰囲気づくりを心掛けていきます。 ・年々増加する療育事業への対応として、事業の充実・拡大等が求められています。今後、会館再整備を進める上でご意見を参考にさせていただきます。 |
| 業務改善 | <ul style="list-style-type: none"> ・PDCA サイクルへの職員参画 ・事業所評価の実施と業務改善 ・事業所自己評価と結果の公開 ・第三者評価の実施と業務改善 ・職員研修の機会確保 | <ul style="list-style-type: none"> ・実施しているものの、周知が十分ではないと思われる。 | <ul style="list-style-type: none"> ・職員打合せや職場内研修、自己評価(平成30年度より実施)、第三者評価(平成28年度実施)を通して業務改善に繋がっています。また、より良い支援を検討するための会議(外部講師含む)や外部研修への計画的な参加により、職員の更なるスキルアップを図っています。今年度は感染症対策のためオンラインを活用するなど工夫して実施しています。 ・自己評価結果は、区のホームページで公開しています。 |
| 適切な支援の提供 | <ul style="list-style-type: none"> ・適切なアセスメントとニーズや課題の分析 ・標準化されたアセスメントツールの使用 ・ガイドラインに即した支援内容の設定 ・子供の状況に応じた児童発達支援計画の作成 ・児童発達支援計画に沿った支援 ・活動プログラムのチーム立案と非固定化の工夫 ・支援前の職員打合せと役割確認 ・支援後の職員打合せと振り返り ・支援記録の徹底と検証、改善 ・定期的なモニタリングと計画の見直し | <ul style="list-style-type: none"> ・児童発達支援計画の内容設定や説明等についての設問で意見があったり、回答を迷われた保護者がいたことから、より丁寧な説明が求められる。 | <ul style="list-style-type: none"> ・初回面接での発達評価及び各種の標準化された検査により発達状況を把握したうえで、児童発達支援管理責任者を含む多職種チームにより支援計画の作成及び提供プログラムの決定を行っています。 ・さらに、支援前後の綿密な打合せやケース会議、モニタリング、館内相談事業所との連携等、様々な機会を通し総合的な判断のもと計画やプログラムの見直しを行っています。 ・今後も、支援計画の丁寧な説明をもとに、一人ひとりのお子さんに合わせた支援提供に努めていきます。 |
| 関係機関や保護者との連携 | <ul style="list-style-type: none"> ・障害児相談支援事業所サービス担当者会議への参画 ・母子保健、子育て支援等の関係者、関係機関と連携した支援 ・保健、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援 ・子供の主治医や協力医療機関等との連絡体制 ・保育園、認定こども園、幼稚園等との情報共有と相互理解 ・小学校、特別支援学校との情報共有と相互理解 ・他の専門機関との連携、助言や研修の機会 ・地域の子供・子育て会議等への参加 ・発達の状況や課題についての、保護者との共通理解 ・保護者への家族支援プログラム提供による支援 ・保護者同士の連携支援 | <ul style="list-style-type: none"> ・地域支援に関して案内が不足していると思われるご意見があった。 ・家庭支援プログラムの提供不足を感じられるご意見があった。 ・保護者同士の連携の設問で回答を迷われた保護者が2～3割いた。感染症対策としてご理解はいただいているものの要望への対応が求められる。 | <ul style="list-style-type: none"> ・公私問わず保育園、こども園、幼稚園等との連携を積極的に進め、地域全体の子育て支援力の向上に努めています。今後も、保護者同意のもと連携を進めていきます。 ・家庭支援プログラムは集まりや密を避けるために中止したり、内容を変更(Q&A形式のお便りや資料提供など)して行いました。ご心配が多い就学に関しては、個別面談の機会を通して情報提供や助言などの支援に努めていますが、個々に合わせたより丁寧な相談や情報発信が提供できるよう今後の支援に繋がっていきます。 ・保護者連携の不足は認識しており、ご意見を通して連携の機会の必要性や期待を改めて感じています。感染症対策の一環として、令和2年12月から導入したオンライン体制にて交流の機会がもてるよう提案していきます。 |
| 保護者への説明等 | <ul style="list-style-type: none"> ・運営規程、利用者負担等についての丁寧な説明 ・児童発達支援計画に基づいた支援内容説明と保護者同意 ・保護者相談を通した必要な助言や支援 ・子供や保護者からの相談への体制整備と迅速かつ適切な対応 ・子供や保護者への、活動概要や行事予定等の情報発信 ・個人情報取り扱いの厳守 ・障害のある子供や保護者との意思疎通、情報伝達への配慮 | <ul style="list-style-type: none"> ・保護者面談や育児相談に関して周知が十分でないと思われるご意見をいただいた。 ・情報発信に関する項目で、回答を迷われた保護者がおり、発信や周知の仕方の工夫が求められる。 | <ul style="list-style-type: none"> ・個別指導のない利用児については、支援計画の説明や発達評価のフィードバックの機会を捉えて面談を設けていますが、相談希望がないか定期的に声掛けるなどして申し入れしやすい体制を整えていきます。 ・定例の行事は年間予定表を配付して見通しがたつようにしたり、各種情報は掲示板を整理して発信の仕方を工夫しました。今年度は、速やかな退室をお願いしているため、ゆっくりとご驚いたかどうか時間がないかもしれませんが、掲示のタイミングで周知するようにしていきます。 |
| 非常時等の対応 | <ul style="list-style-type: none"> ・緊急時に関する各種マニュアルの策定と周知 ・災害を想定した訓練の実施 ・服薬、予防接種等の子供の状態確認 ・ヒヤリハットの作成、共有 ・虐待防止に向けた対応 ・身体拘束に関する説明等 | <ul style="list-style-type: none"> ・各種マニュアルや避難訓練についての設問で「はい」以外を選択された保護者が2～3割いた。 | <ul style="list-style-type: none"> ・各種マニュアルを策定して職員に周知徹底しているほか、必要に応じてピンポイントで情報掲示を行っています。 ・避難訓練は、療育指導優先のため保護者との避難経路確認のみですが、職員は会館の消防計画等に基づく3回の避難訓練を実施しています。今年度は、感染症対策のため図上訓練に変更して実施予定です。 |
| 安心・満足度 | <ul style="list-style-type: none"> ・感染症対策は講じられているか ・お子さんは通所をたのしみにしているか ・事業所の支援に満足しているか | <ul style="list-style-type: none"> ・安心して通所いただいている一方で、療育の頻度等に関してご意見をいただき、療育に対する期待として真摯に受け止めています。 ・9割強の保護者に満足と回答をいただいた。 | <ul style="list-style-type: none"> ・感染症対策については多くの方に安心していただいております。療育規模の縮小に関しても「少人数で丁寧な支援」と前向きな評価をいただく一方で、頻度等を不足と感じるご意見もいただきました。安心・安全に、かつ多くのお子さんに行き届く支援を検討した体制であることをご理解いただけますようお願いいたします。引き続き、より質の高い支援が提供できるよう創意工夫をしていきます。 ・ご要望の全てに応じるのは難しいですが、今後も一人ひとりのお子さんにご家族に合わせた支援を心掛け、少しでも満足に近づけるよう努めていきます。 |